

平成29年度第1回横浜市子ども・子育て会議 会議録	
日 時	平成29年11月21日（火）午後6時30分から午後8時15分まで
開催場所	関内新井ホール
出席者	大日向雅美委員長、明石要一副委員長、太田恵蔵委員、大野功委員、神長美津子委員、木元茂委員、熊谷浩伸委員、後藤美砂子委員、小松眞委員、津富宏委員、難波裕子委員、橋本ミチ子委員、藤井千佳委員、丸山智美委員、村田由夫委員、八木澤恵奈委員、柳井健一委員、山田美智子委員、吉田眞理委員
欠席者	佐藤眞一郎委員
開催形態	公開（傍聴者5人）
議 題	<p>1 各部会からの報告について</p> <p>（1）子育て部会</p> <p>（2）保育・教育部会</p> <p>（3）放課後部会</p> <p>（4）青少年部会</p> <p>2 審議事項</p> <p>（1）平成28年度 横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価（総括）について</p> <p>（2）横浜市子ども・子育て支援事業計画における地域子ども・子育て支援事業に関する「量の見込み」及び「確保方策」等の中間見直しについて</p> <p>3 その他</p> <p>（1）横浜市ひとり親家庭自立支援計画（平成30～34年度）の策定について</p> <p>（2）第3期横浜市障害者プランの中間見直しについて</p> <p>（3）子ども・子育て支援関連イベントの開催案内について</p>
決定事項等	なし
<p>1 各部会からの報告について</p> <p>（1）子育て部会</p> <p>（吉田委員）資料3-1に基づき報告</p> <p>（丸山委員）第1回の主な意見として、『「市立特別支援学校の再編整備」について、北綱島特別支援学校の閉校に関しては、保護者などから存続を求める声が多くあることを記載してほしい』とありますが、こちらの記載は具体的にどのような文章になったのか教えていただきたいと思えます。</p> <p>（事務局）資料4「平成28年度 横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価（総括）について」の「＜参考2＞各部会での意見を踏まえて修正を行った箇所」をご覧ください。「市立特別支援学校の再編整備」に関する修正前の記載は、「北綱島特別支援学校の保護者をはじめ、一部の反対意見はあるものの、地域や他特別支援学校の保護者等からの理解は概ね得られている」でした。こちらを部会でのご意見を踏まえ、「左近山特別支援学校（仮称）の開校については、地域や特別支援学校の保護者等からの理解を得られている。なお、北綱島特別支援学校の閉校に関しては、保護者などから、存続を求める意見がある」と修正しております。</p> <p>（丸山委員）確かにこの修正前の文章だけですと抵抗があります。修正していただいた文章で、理解を得られるのではないかと感じました。</p> <p>（2）保育・教育部会</p> <p>（神長委員）資料3-2に基づき報告</p>	

(太田委員) 幼保連携型認定こども園についてですが、市としては幼保連携型認定こども園をこれから増やしていくのか、何かお考えがあったら教えてください。

(事務局) 幼保連携型認定こども園につきましては、毎年度予算を取りまして、徐々に増やしている状況でございます。

(太田委員) 現在、保育所等が増えている中で、園医がそれに追いつかないという課題があります。今後、幼保連携型認定こども園も増やしていくということになると、子どもの人数が多い施設でもあるので、園医としても対応するのが難しくなってくるのが想定されます。幼保連携型認定こども園の増加に伴い、市でも園医の対策に関するプラン等ございましたら、教えていただけると幸いです。

(事務局) 幼保連携型認定こども園については、現在、新規でつくるということはやっておらず、幼稚園から認定こども園に移行する形をとっています。幼稚園には既に園医がいらっしゃいますので、改めて園医が必要ということではございません。今後は、保育所からの移行についても進めていこうと思っておりますが、これについても既存の保育所が移行するという形でございます。

(3) 放課後部会

(明石副委員長) 資料3-3に基づき報告

(村田委員) 放課後キッズクラブは学校の校舎を使うため、子どもたちは学校の中でずっと過ごすことになり、地域との関係がなかなか深まらないと思います。そういう点で、プレイパークは、子どもの姿が地域の人の目にとまりやすく、また地域の方とのかかわりの中で子どもたちは育っていくことが可能だと思いますので、保育にかかわる立場からもぜひプレイパークを広く展開していただければと思います。

(4) 青少年部会

(津富委員) 資料3-4に基づき報告

⇒質問・意見なし

2 審議事項

(1) 平成28年度 横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価（総括）について

(事務局) 資料4に基づき説明

(津富委員) 基本施策⑦の「ひとり親家庭の自立支援」について質問です。「ひとり親家庭の就労者数」が指標の1つになっているのですが、ひとり親家庭では、仕事に就くことでかえって忙しくなって、子育てに割く時間が減ってしまったり、あるいは仕事の形態によってはフレキシブルに休みを取れないことによって、例えば子どもを病院に連れていくことが難しくなったりすることがあります。就労者数の達成だけでなく、そういった就労のあり方について、どんな配慮をしている事業なのかということをお教えいただこうと思います。

(事務局) おっしゃるとおり、就労してもらえばそれでいいという話ではなく、就労だけではなく子育てや生活全体を支える仕組みが必要だと考えております。こちらの指標に挙げさせていただきました就労者数という数字は、市の委託事業の中で、就労支援員が区役所に出向いて、ひとり親の方の就労に向けた意欲を引き出したり、寄り添った支援をしながらできるだけご希望に沿った形の就労につなげたりというプログラムの中で、実際に就労につないだ方の数ということになります。

(山田委員) 多様な働き方を支援する上では、延長保育や休日保育、放課後児童クラブはなくてはならないと思います。子どもの育ちを保障しつつ、保護者の働き方をどのように考えていくかということは、この会議だからこそ考えられることだと思います。その議論を抜いたまま、ひとり親の支援や貧困の支援はできないと思

いますので、さまざまな働き方と親子のあり方を支える議論ができればいいと思っています。

(2) 横浜市子ども・子育て支援事業計画における地域子ども・子育て支援事業に関する「量の見込み」及び「確保方策」等の中間見直しについて

(事務局) 資料5に基づき説明

⇒質問・意見なし

3 その他

(1) 横浜市ひとり親家庭自立支援計画（平成30～34年度）の策定について

(事務局) 資料6に基づき説明

(柳井委員) 「ひとり親家庭自立支援計画策定連絡会」のメンバーは、本会議のメンバーと重なっている方もいるのでしょうか。どういう方々が参加しているのでしょうか。

(事務局) 「ひとり親家庭自立支援計画策定連絡会」につきましては、学識経験者が1名、法律の専門家が1名、当事者団体の関係者が1名、ひとり親家庭の支援者団体関係者が6名、その他行政の関係部署等も含めまして計15名の委員の皆様にご検討いただいています。

(明石副委員長) ひとり親家庭の方に話を聞くと、正社員が少なくパートが多いため、正社員になるための資格取得の希望が非常に高いと感じます。正社員になりたいというひとり親の方に対して、奨学金がある資格取得に関する案内をもっとしていただければと思います。それから、料金が安く、有能な弁護士を紹介していただきたい。最後に、0歳から5歳まではいろいろと手当があるが、小学校に上がった途端に手当が出ないため、ぜひひとり親支援の場合には、0歳から5歳までの支援の方法と、学齢期に入った子どもがいる家庭への支援の方法を変えていただけると、保護者としては助かると思います。

(藤井委員) 私は主任児童委員をやっており、ひとり親家庭の支援をこの5～6年は頻繁に要請されるようになりました。実際に夕飯をつくって届けたり、食料を届けたりしたこともあります。全般的にひとり親のご家庭は時間がないため、お子さんとかかわる時間が少なくなってしまうがちですので、財政的な支援だけではなく、プラスアルファの支援がとても必要だと強く感じています。また、お金の使い方や、掃除・洗濯の仕方、学校に関する手紙の読み方など、そういうところも細かく支援していかないと解決につながらないということも強く感じております。また、離婚も一度ではなく何度かされていますと、お父さんやお母さんがきょうだいと違うというケースもあり、私たちもどこから何をどう手をつけていいのかと頭を抱えるようなことがたくさんあります。そういう意味では、地域の方や学校の方、役所の方が連携して取り組んでいかなければ、本当の解決につながらないということ強く感じております。

(柳井委員) 横浜労働者福祉協議会として始めた事業に子ども食堂への支援があります。ひとり親家庭＝貧困ではないとは思いますが、実際、子どもが食べられないという状況がある中では、ぜひ子ども食堂への支援のあり方についても、どこかに入るといいと思いました。

(八木澤委員) ひとり親家庭への支援団体・当事者団体へのヒアリングされている中で、障害のある子どもを育てているの悩みや、障害のある子を育てているからこそその就労に当たっての難しさなどという声は上がっていますでしょうか。

(事務局) 障害のあるお子さんがいるからより困難が複合的になるというお話はありますが、障害だから直ちにどうというようなご意見はありませんでした。当事者団体の方からは、障害のある子を抱えているひとり親が増えているように思うという意見とともに、ひとり親という不安に加えて子どもの障害ということに向き合わなければいけないということなので、生活費から心理的な負担など、困っていることを発信しにくかった

り、周囲の理解が得られにくかったりするといったご意見をいただいております。

(八木澤委員) 最近、子どもに障害があることも離婚の一因になっているのをよく聞くことがあります。働く女性への支援の視点では、障害のある子どもがいる家庭への配慮についても、ぜひ頭に置いて考えていただけるとうまく進むのではないかなと思っています。

(2) 第3期横浜市障害者プランの中間見直しについて

(事務局) 資料7に基づき説明

(山田委員) 医療的ケア児については、どこに相談していいのかわからないという声も聞きますので、コーディネーターの方が来ていただけると当事者の方は助かると思いますので、よろしくをお願いします。

(木元委員) 地域療育センターのほか、株式会社等が運営している様々な発達障害等の子どもたちを支援する会社が増えている中で、地域における療育のためのいろいろな資源がすっきりと整理できるとよいと思います。また、こういった資源のあり方というのは、今後、本会議でもぜひ議題に挙げていってもいいのかなと感じました。

(3) 子ども・子育て支援関連イベントの開催案内について

⇒質問・意見なし

閉 会

資料	資料1-1 横浜市子ども・子育て会議委員名簿 資料1-2 横浜市子ども・子育て会議事務局名簿 資料2-1 横浜市子ども・子育て会議条例(平成27年4月1日施行) 資料2-2 横浜市子ども・子育て会議運営要綱(平成27年4月1日施行) 資料3-1 子ども・子育て会議部会報告書(子育て部会) 資料3-2 子ども・子育て会議部会報告書(保育・教育部会) 資料3-3 子ども・子育て会議部会報告書(放課後部会) 資料3-4 子ども・子育て会議部会報告書(青少年部会) 資料4 平成28年度 横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価(総括)について 資料5 横浜市子ども・子育て支援事業計画における地域子ども・子育て支援事業に関する「量の見込み」及び「確保方策」等の中間見直しについて 資料6 横浜市ひとり親家庭自立支援計画(平成30~34年度)の策定について 資料7 第3期横浜市障害者プランの中間見直しについて 資料8 「第2回 地域子育て支援フォーラム」案内ちらし
特記事項	本日の議事録は、各委員に確認していただいた後、ホームページで公開する予定です。